

Monthly Report

リオ五輪 女子柔道のパブリックビューイングを開催 ～女子70kg級で田知本遥選手が金メダルを獲得～



田知本選手と南條監督を応援する柔道塾の子どもたち

8月10日（水）午後10時から11日の未明にかけて仙台大学ラーニングコモンズ棟において、リオデジャネイロオリンピック女子柔道のパブリックビューイングが開催されました。会場には、仙台大学柔道塾に参加している子どもたちやその保護者、地域の方々や仙台大学関係者など約110名の方々にお集まりいただき、仙台大学教授でリオ五輪柔道女子監督の南條充寿教授と女子70kg級田知本遥選手に大声援を送りました。仙台大学パブリックビューイング会場からの大声援が届いたのか、田知本選手は見事金メダルを獲得しました。本当におめでとうございました。

監督と選手の頑張りをまぶたに焼き付けた柔道塾のこどもたちの中から、日本の柔道界を担う未来のオリンピックが誕生することを願っています。

また、8月17日には、南條充寿教授が朴澤泰治理事長・学事顧問と阿部芳吉学長を訪れ、帰国の報告を行いました。南條教授は「パブリックビューイングを行っていただくなど、皆さんからいただいた多くの応援に感謝したいと思います。おかげさまで金メダル1個と銅メダル4個のメダルを獲得することができました。」とリオ五輪での活躍を報告しました。

これに対し阿部学長からは「大変なプレッシャーの中での戦いだったと思う。金メダルの獲得、本当におめでとうございました。」と南條教授の労をねぎらっていました。

南條教授は、オリンピックの疲れも見せず、帰国後早々から柔道部員・柔道塾の子供達の指導に精力を傾け、10月9日～10日と本学を会場に実施される「柴田町町制60周年記念2016東北こども博」で田知本選手と南條夫妻とのトークショーも予定されるなど 次世代のオリンピック誕生に向けてすでにスタートしています。

〈目 次〉

リオ五輪 女子柔道の パブリックビューイングを開催	1
朴澤理事長・学事顧問らが中国高 地国際体育学会に参加	2
今年も大盛況「仙台大学オー プンキャンパス2016」	3
地方自治体・企業等の立場から の点検・評価	4
本学の学生3名が人命救助	5
国際交流の様子	6-7
学生の活躍	8
「子ども運動教育学科」 平成29年4月に開設	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

E-Mail kouhou@sendai-u.ac.jp

南條教授からのコメント

応援下さったすべての方々へ

パブリックビューイングでの応援、ありがとうございました。皆様のご声援のおかげで、田知本遥選手も持っている力を全て出してくれ、金メダルを獲得することができました。今日、応援してくれた皆さんの中から、またオリンピックに出る選手が出てきてくれると嬉しいです。皆さん、誠にありがとうございました。

リオ五輪柔道女子監督 南條充寿



奥様で仙台大学女子柔道部監督の和恵さんとともに
リオでの活躍を報告

朴澤理事長・学事顧問らが中国高地国際体育学会に参加

8月2日から6日までの4日間、中国の青海省体育科学研究所にて、第4回中国高地国際体育学会が開催されました。本学会は、高地におけるトレーニングや健康増進などの研究活動を国際的な観点から報告する会です。本学からは、青海省共同研究実行委員会の実行委員長である朴澤泰治理事長、発表者として、健康関連調査担当の実行委員笠原岳人准教授、東北師範大学出身の大学院2年金瑞年氏、通訳として大学院事務室馬冬梅氏の4名で参加をしてきました。

発表者の笠原准教授は「日本と中国における健康関連指標の国際・地域比較に関して」、金氏は「日本と中国における身体活動量の地域間比較」というテーマで発表を行いました。発表の概要は、中国の教育研究機関（青海省体育科学研究所、上海体育学院、瀋陽師範大学）と、柴田町の一般健常者を対象に、骨密度と体組成の測定、身体活動状況の聞き取りなど、それぞれの地域ごとで実施した3項目を中心に比較検討した内容です。

健康をキーワードとした研究発表も多く、その背景には、中国国内における幼少期の肥満傾向児の増加が問題視されていることがあるようでした。今後は、高地という環境下での身体活動が及ぼす効果が期待されているようで、発表後の質疑応答のなかでも、健康づくりに関連する内容で意見交換をすることができました。大学院生の金氏も自身の研究に関連した内容について、研究者と意見交換をすることができ、大変貴重な経験を積むことができたと思われまます。

参加者の多くが、地元中国の研究者でしたが、フランス、ドイツ、韓国で活躍する研究者から、自国における高地トレーニングの研究成果を聞き、改めて高地における研究領域の広さを実感しました。

今回参加させていただいた国際学会では、本学と国際交流協定機関を結ぶ中国の教育研究機関の全面的なご支援のもとで発表につなげることができました。

これらの成果を踏まえ、引き続き、青海省共同研究実行委員会の朴澤理事長・学事顧問を中心に、さらなる研究活動の公表に向けた活動を行っていきたいと考えております。

(報告：笠原岳人 准教授)



今年も大盛況「仙台大学オープンキャンパス 2016」



8月6日（土）、「仙台大学オープンキャンパス 2016」を実施し、1,043名（生徒677名・同伴者366名）の方々において頂きました。オープニングセレモニーでは、保科政翔（ほしな・まさと）さん（体育学4年―北海道函館陵北高校出身）と宍戸香菜子（ししど・かなこ）さん（健康福祉学科4年―仙台東高校出身）の元気溢れる司会により明るく楽しい雰囲気の中でセレモニーは進み、各学科を代表する学生がそれぞれの学科の特徴などをわかりやすく紹介してくれました。

オープニングセレモニー終了後には、5学科の体験・紹介コーナーやミニ講座「教師になろう!」、進路紹介「スポーツ選手を支える仕事」、小論文対策講座、個別入試相談会、仙台大学とオリンピック・プロスポーツに関する展示会などを行い、参加した高校生や保護者の皆様方には仙台大学の魅力や取り組みをなお一層理解していただけたことと思います。

暑い中でのご来場、誠にありがとうございました。

リオ・パラリンピック ボッチャ競技 ヘッドコーチに大学院1年の村上光輝さんが就任

9月7日からリオデジャネイロで開催されるパラリンピック競技大会ボッチャ競技の日本代表ヘッドコーチに、本学大学院1年の村上光輝（むらかみ・みつてる）さんが就任することとなりました。

8月17日（水）には阿部芳吉学長を表敬訪問し、「リオでのパラリンピックでメダルを獲得し、ボッチャ競技の普及に繋げたい。」とリオデジャネイロでの活躍を誓いました。

村上さんは福島県出身の42歳。東北地方でボッチャ競技の選手を育成したいという思いから本学大学院への入学を決意。「地方にいる選手のレベルが上がれば全国のレベルを上げていくことができる」という思いを抱きながらボッチャ競技を支えています。

オリンピックに引き続き、パラリンピックでも本学関係者が活躍します。



阿部学長にヘッドコーチ就任の報告をする村上さん

仙台大学広報誌『S.U.N. 19号』を発行

このほど、仙台大学広報誌『S.U.N. 19号』が発行されました。

今号では、全日本柔道女子監督として出場した南條充寿教授と本学女子柔道部監督で奥様の和恵さんとの対談や、教採塾の取り組み、文部科学省からの補助金にて導入した「可搬式スポーツ動作情報リアルタイム解析・評価装置」などについて紹介させていただいています。

また、表紙を飾ってくれたのは女子サッカー部の須永愛海（すなが・まなみ）さん（体育学科4年―福島県富岡高校出身）。須永さんはこれまで数多くの国際大会に日本代表として出場しており、今年もU23の代表にも選拔されました。

『S.U.N.』は年2回、8月と2月に発行しており、在学生の保護者や卒業生、宮城県内各高校など、広く一般の方々にも配布しています。

次号の発行は来年の2月です。掲載してほしい記事や話題がありましたらお気軽に広報室までご連絡ください。



地方自治体・企業等の立場からの点検・評価



貴重なご意見を頂戴しました

8月23日（火）、大学改革に係る地方自治体・企業等からの点検・評価を、水戸柴田町副町長、安部俊三柴田町議会議員（本学OB）、大槻裕喜柴田町商工会長の3名の方々にお越しいただき開催されました。

冒頭、阿部学長が「多くの意見を頂戴し、今後の教育の質向上やより一層の地域貢献、産業界等と連携した教育研究に繋げていきたい。」とあいさつを述べました。その後、意見交換が行われ、水戸副町長からは「アクティブ・ラーニングを発展的に展開し、公共サービスへの寄与やビジネス化、産業の創出に繋げてほしい。」、安部議員からは「大学と町との関係は良好であるが、どのように連携しているのかということも多くは知らない状況にある。

連携した取り組みなどを町全体に周知してはどうか。」、大槻会長からは「地域の特産品づくりを進める際、運動栄養学科の先生方や学生の皆さんに協力をいただき完成した。今後も大学からの協力、ノウハウの提供をいただきながら進めていきたい。」など、それぞれの方々から本学に対する多数のご意見やご助言を頂戴しました。

本学は来年度、創立50周年を迎えます。地元の柴田町の方々に支えられてまいりました。今後も地域とともに発展し続ける大学をめざし、邁進して参ります。

仙台大学バレーボール縦の木会主催の大会を開催

7月30日（土）、31日（日）に本学の第2体育館および第5体育館において、本学OB・OGの先生方が中学校、高校でバレーボール部の顧問をされているチームが参加して「縦の木杯」が開催されました。本大会は毎年行われており、今回で縦の木会長杯（高校女子）は第35回、宍戸勇杯（中学男子）は第6回、松本昌三杯（中学女子）は第18回を数え、歴史ある大会となっています。参加チームは本学の卒業生が顧問をしているチームで、宮城県だけでなく他県からもチームの強化のために参加していただきました。

また、これまではOB・OGの先生方による企画、運営だったものを今年度より仙台大学の専門教養演習における授業の一つのコンテンツとし、この授業を履修している本学男子バレーボール部および女子バレーボール部の学生を中心にOB・OGの先生方の指導を仰ぎながら準備段階から当日の運営まで進めて参りました。

大会当日は大変暑く熱中症の危険も心配される中、その暑さに負けないような白熱した試合が展開され、参加チームの選手はひたむきにボールを追いかけていました。

今後も本学OB・OGの先生方との連携を深め、様々な方面でご指導・ご協力を頂きたいと思えます。

★宮城県外のチーム（中学校は全チーム宮城県内）

新潟県 新潟中央高等学校 上村 裕希 先生（26回生）
 福島県 磐城第一高等学校 江尻 沙和香 先生（41回生）
 青森県 千葉学園高等学校 糸坪 美里 先生（44回生）



開会式（上）と白熱したゲーム

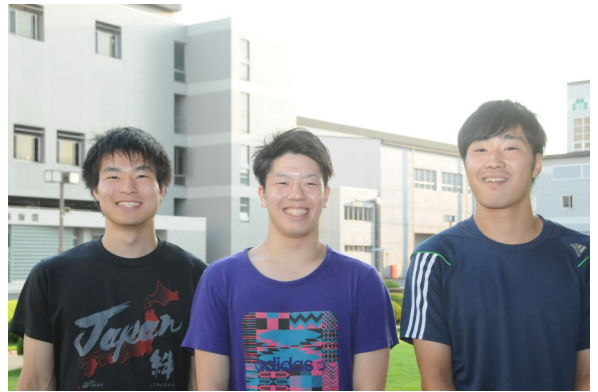
報告：新助手 中村 祐太郎
 バレーボール部 田村 佳樹（体育学科4年）

本学の学生3名が人命救助

8月4日（木）船岡地区に在住する女性より、本学学生の行った行動に対して感謝のお電話がありました。

電話の内容は、7月30日（土）午後に路上で倒れていた高齢の男性をたまたま通りかかった本学学生3名が発見し、適切な応急処置をしてくれたというものでした。この3名の学生は、男子新体操競技部の小原一誠さん（体育学科4年）、松根光介さん（現代武道学科4年）、佐藤健太郎さん（体育学科2年）。3人によると、帰宅のために歩いていると目の前で高齢の男性が倒れていたようで、当日は高温だったため熱中症を疑い、手分けをして日陰に運び、119番通報や意識確認、近所で氷をもらってくるなどしたそうです。

後日のご家族からのご報告によると、倒れた男性も大事に至らず順調に回復しているとのことと、この報告に、3人は「とにかく助けなければならぬと必死でした。大事に至らなかったと聞きホッとしました。」と話してくれました。



人命救助を行った（左から）佐藤さん、小原さん、松根さん

生活習慣改善支援事業

～リコーインダストリー(株)でよさこいソーラン節を指導～

仙台大学では平成24年度よりリコーインダストリー株式会社様と生活習慣改善支援事業の契約を結び、運動指導、レクリエーション活動支援等を行ってきております。その一環で、平成28年8月26日（金）柴田町内にあるリコーインダストリー東北事業所で行われた「2016東北事業所夏まつり」のレクリエーション企画「よさこいソーラン節」の指導をスポーツ健康科学研究実践機構の齋藤まり新助手と菅陽大が対応して参りました。

7月26日から8月24日までの約1ヵ月間、リコーインダストリーの社員計15名と共に、本番当日に向け練習を重ねてきました。

当日はリコーインダストリーの社員を中心に約700名が来場され、その中で練習の成果を披露し、大好評を博すことが出来ました。

今回の「よさこいソーラン節」を振り返り、リコーインダストリー事務局の栗野久恵さんからは「お祭りの最初の出し物として会場を盛り上げるために、『よさこいソーラン節』を企画しました。今回、仙台大学から指導を受け練習する事で、普段体を動かす事が少ない人も体を動かす機会が増え、健康増進、生活習慣の改善に繋げる事が出来ました。練習には、真剣かつ楽しく取り組むことができ、本番が終わった時にはやりきった気持ちと共に、終わってしまったというさみしい気持ちもありました。来年度もまたこのような機会がありましたらヨサコイをやりたいです。」と指導への総括をして頂きました。

今回、リコーインダストリーの方々への指導を通し、一緒に活動出来たことは我々にとって大きな経験となりました。今後も企業支援活動等を通じ地域貢献活動に繋げて行きたいと思っております。

〈報告：スポーツ健康科学研究実践機構 菅陽大〉



よさこいソーラン節を披露する社員の皆さん

ハワイ大学教育学部のHPで本学での留学プログラムの様子が紹介されました

News

KRS sends first delegation in 13 years to Sendai University

Posted on August 26, 2016

Five undergraduate students from the Department of Kinesiology and Rehabilitation Science (KRS) and assistant professor Yukiya Oba visited [Sendai University](#) in Funaoka City, Miyagi, Japan to conduct an 8-day field study around the greater Sendai area from June 5 to 12, 2016, as part of the KRS 208 Recreation Services in Contemporary Society course. This visit marks the first time for KRS to visit Sendai University in 13 years since the two institutions started cultivating their collaboration and partnership particularly in the field of athletic training.



KRS faculty and students at the welcome reception hosted by the CEO and President of Sendai University

The field study program started with a warm welcome by the Sendai University CEO Taiji Hozawa and President Yoshikichi Abe, as well as related faculty and staff, including program coordinator Kyoko Shirahata and a number of Sendai University students. The primary purpose of this field trip program was to deepen understanding of Japanese culture for our students through observation and participation in a variety of sports-related activities in various educational and athletic levels. The program features included physical education facility site visits, athletic training and game observations, nutrition/cooking class participation at Sendai University, including a Japanese language orientation session for our students.

Highlights also include a visit to Onagawa City, an area heavily devastated by a tsunami after the Tohoku earthquake in 2011. During this visit, our students participated in an exercise session for elderly citizens who live in temporary residences as a result of the disaster. The group also visited Shibata High School and Higashi Funaoka Elementary School where our students were invited as guest speakers in their English classes.

KRS Chair, Nathan Murata also visited during the program. He presented a plaque to CEO Hozawa and President Abe to commemorate the growing partnership and as a token of appreciation of their hospitality to the KRS delegation. The College and Sendai University recently signed a Memorandum of Understanding on September 3, 2014, to further our partnership through exchange opportunities in education, research and scholarly material.



KRS and Sendai University students excited to spend a week together

Instructor Yukiya Oba noted: "On behalf of KRS, I sincerely appreciate everything Sendai University provided and facilitated in this field trip. My students truly enjoyed all aspects of the program experience filled with their utmost hospitality. It was also great to see our students cultivate friendships with the Sendai University students throughout the program. We hope this two-way multicultural exchange program continues to grow in our long partnership."

Sendai University will be sending their bi-annual short-term study group of faculty and students to KRS this fall semester in early September 2016. The program will feature athletic training related activities and observations at UH Athletics and McKinley High School.

This field trip was a requirement of KRS 208 Recreational Services in Contemporary Society, a 3-credit course offered in Summer Session I. For more information on this course, please contact Dr. Yukiya Oba at yukiya@hawaii.edu.

【概訳】

＝ハワイ大学教育学部KRS（キネシオロジー＆リハビリテーションサイエンス）学科の学生5名が初来学＝

仙台大学が提携している米国ハワイ州ハワイ大学教育学部KRS（キネシオロジー＆リハビリテーションサイエンス）学科の学生5名と同学科の学科長であるネイテン・ムラタ博士及び大庭有希也准教授が、仙台大学との13年にも渡る長い交流の歴史のなかで初来学し、6月5日～12日にかけて本学で学んだ様子が、同大学教育学部のHPで紹介されました。

仙台大学の朴澤泰治理事長・学事顧問と阿部芳吉学長をはじめ、研修のコーディネーターである白幡助教、関係者、学生達らのあたたかい歓迎により幕を開けた研修は、日本文化への理解とさまざまなスポーツに関するアスレティックレベルの体験学習、プロフェッショナルな競技見学、明成高校調理科の協力による和食づくりなど非常に幅広く、充実した内容でした。

研修のハイライトは、2011年東日本大震災の津波により被災した女川の仮設住宅に住む高齢の方々の慰問で、学生達は柴田高校と東船岡小学校の英語の授業にゲストスピーカーとしても招かれました。

ムラタ博士は、2014年9月3日に両校が交わした「国際学術交流に関する基本合意書」に基づき、今回このようにあたたかいおもてなしを受け、学生達同士が打ち解けあい、学術的な交流を深められたことに心からお礼申し上げますと挨拶し、大庭准教授は、UHの学生が仙台大学の学生達と共に素晴らしい経験を共有し、成長することができました。双方向の友情がこれからますます発展していくことを願っていますと述べました。

次は仙台大学が9月にUHのKRSで、アスレティックトレーニングに関する研修を行う番で、両校のさらなるアカデミックな歴史が刻まれていきます。

HP URL :

<https://coe.hawaii.edu/about/news/2016/08/krs-sends-first-delegation-13-years-to-sendai-university>

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のHPでも 本学での留学プログラムの様子が紹介されています

【概訳】

＝カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）より11人の学生達が仙台大学で研修＝
～仙台大学へ“お帰りなさい”（Welcome Back）～

仙台大学が提携しているカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）スポーツマネジメント学科より、11人の学生達と引率のマネージング・ディレクターである古谷仁氏が7月19日～29日にかけて本学で学んだ様子が、同大学スポーツマネジメント学科のHPで紹介されました。

北海道・東北唯一の体育大学である仙台大学で4回目となる研修は、スポーツ文化のみならず、日本語教室に参加してお習字を習うなど、学生達は美しい仙台と東京でさまざまな体験をしました。

プログラムディレクターで、特命副学長であるマーティ・キーナート氏のご尽力により、学生達はベガルタ仙台というプロサッカーチームを訪れ、東北楽天イーグルスというプロ野球試合を宮城KOBOSタジアムで、東京ドームで「オールタイム・サントリードリームマッチ」を観戦他、日本で最も有名な野球選手である元阪神タイガーズの選手であるランディ・バスと、スポーツバーでの会食を楽しみました。学生達は日本の新しい友人を得、異なる文化におけるスポーツビジネスの違いを学ぶなど、実に充実した研修となりました。

参加した学生の1人であるジャッキー・ヤラスさんは「日本への研修旅行は私の人生でかつて経験したことのないほど素晴らしいものでした。日本は美しい地であるのみならず、仙台の町全体があたたかいおもてなしの心に満ち、たくさんの授業で得た知識もですが、私達とずっと共に過ごしてくれた仙台大学の学生達からこそ、多くを学ぶことができました。日本の真の文化と共にスポーツの新たな側面を知りえる貴重な経験でした」と述べています。

HP URL : <http://web.csulb.edu/colleges/chhs/programs/sports-management/index.html>

OKAERINASAI (Welcome Back) to our students who studied sport in Sendai, Japan!

Our Sport Management program sent off ten students to study abroad at Sendai University, the only physical education and sports & health science university located in northern Japan! These students were not only exposed to the sport culture, but took Japanese language classes, tried our hands at calligraphy, and saw the beautiful countryside of Sendai, and the city of Tokyo.



With the help of program director, Marty Kuehnert, the students witnessed a Vegalta Sendai soccer match at the Yurtec Stadium, a Rakuten Eagles baseball game at the Rakuten Kobo Stadium Miyagi, and the 'Old Timers' Suntory Dream Match at the Tokyo Dome. While learning about Japanese high school baseball, professional baseball, and sumo, the students also enjoyed a sports bar dinner at the Legends Sports Bar with former American baseball player, Randy Bass. Randy is most famous in Japan for his time with the Hanshin Tigers of Central League.



Given the opportunity to meet and learn from the Japanese students, everyone came back with new friends and a different understanding of the business of sport!

"Sendai was amazing and a culturally enriching trip. It has helped me see the world in a new light. Japan introduced me to a completely different culture of sports and competition. Definitely an experience of a lifetime!" -Ashley Hampton LT 30

"Going on the Sendai, Japan trip was the best traveling experience I've ever had. Not only is there a beautiful county, but the city was also so welcoming. We learned so many lessons in class, but also from our new friends from Sendai University who were with us the whole time. We got to experience the real Japanese culture and see first hand another side of sports!" - Jackie Rayas LT 29

漕艇部 全日本新人選手権大会で3種目制覇



優勝した男子エイト（写真は予選の様子）

8月19日～21日の3日間、宮城県登米市にある長沼ボート場において、第57回全日本新人選手権大会が開催されました。この大会は、大学2年生までの選手が出場できる大会で、本学漕艇部からは男子7クルー、女子4クルーが出場しました。

結果は、男子エイト、男子舵手つきフォア、女子ダブルスカルで優勝。（男子舵手つきフォアについては2連覇達成）

男子ダブルスカル、女子シングルスカルで第3位の成績を収めることができました。

上記入賞種目以外にも多くのクルーが決勝に進出することができ、9月22日から始まる全日本大学選手権大会（インカレ）に向けて良い勢い付けができました。

引き続き、よろしくお願いいたします。

（報告：漕艇部 監督 阿部 肇 教授）

石川大暉選手がヴォスクオーレ仙台特別指定選手として承認

このほど、本学体育学科4年の石川大暉（ひろき）選手（宮城県利府高校出身）が、公益財団法人日本サッカー協会のFリーグ（フットサルのトップリーグ）特別指定選手制度に基づき、Fリーグ特別強化指定選手として承認されました。今回の承認により石川選手は、仙台大学Futsal部員としての立場を有しながら、ヴォスクオーレ仙台の選手の一員としてFリーグの試合に出場が可能となります。

7月27日には石川選手とヴォスクオーレ仙台の坂本理（さとる）代表取締役が阿部芳吉学長を訪問し、特別指定選手承認の報告をおこないました。石川選手は「地元のチームで活躍できることを大変うれしく思っている。日々の努力で、チームの勝利に貢献できるような選手になりたい」と今後の活躍を誓いました。

皆様からの応援をお願いいたします。



プロチームでの活躍を誓う石川選手（中央）

「柴田町町制60周年記念 2016東北こども博」が開催決定



昨年のこども博の様子

東日本大震災による被災で、体を動かす機会が減ってしまった地域の子どもたちが元気になれる場を提供しようという目的で2011年に始まった「東北こども博」は「柴田町町制60周年記念2016東北こども博」（主催：東北こども博実行委員会、後援：文部科学省・宮城県・宮城県教育委員会他）として今年も10月9（日）～10月・祝）の2日間、仙台大学を会場に実施することとなりました。

”遊んで からだを動かし 元気になろう！！” をテーマに、本年度町制60周年を迎えた柴田町、陸上自衛隊船岡駐屯地などの特別協力をいただきながら子どもも大人も全ての方々に笑顔になっていただけるイベントです。仙台大学の学生達による多くのボランティアと一緒に、おもちゃや遊び、スポーツで心地よい汗を流しましょう。

入場は無料ですので、皆さまお誘いあわせの上、是非ご来場ください。

【速報】平成29年4月より「子ども運動教育学科」を開設

このほど、「子ども運動教育学科」（定員40名）の設置が文部科学大臣より認可されました。平成29年4月に開設される運びとなります。

幼児期の子どもは体を動かし、音楽に親しみ、図画工作などを通して好奇心と想像力を養い心身ともに発育・発達していきます。

そのプロセスを、まず、体育学の領域で子どもの運動あそびの支援や助長の方式を学び、また、これを軸にして、併せて心身の発育・発達を促す子どもの保育と教育のありについても学修していくこと…すなわち、体育学に併せ、幼児教育学・保育学をも一体的に学修していくことが、新設の「子ども運動教育学科」での学修課題です。

この学科では、“スポーツが好き！” “子どもが大好き！”という方々に、次のような新しいタイプの「幼稚園教諭」、「保育士」、「幼児体育指導者」の資格取得の道を開くこととしています。

また、少子化が進む中、地方では、少ない子どもをいかに良き人材に育て地方の創生につなげていくかが課題になっています。新学科では、体育・スポーツ健康科学、幼児教育学、保育学の分野での多彩な教員の顔ぶれを揃え、このような課題に取り組めるような学生を育てることに力を入れていくこととしています。

なお、新学科の概要やカリキュラム、入試要項等につきましては、随時、ホームページ等で紹介するほか、仙台駅2階（新幹線中央口エスカレーター前）に設置している広告看板などでも周知して参ります。

【取得できる資格】（予定）

1) 幼稚園教諭第一種免許

幼児期の子どもの運動あそびの支援・助長方式を学び、併せて、幼児教育学・保育学を修得し、幼稚園での幼児教育や保育の指導を行える幼稚園教諭

2) 保育士

保育現場における運動あそびの支援・助長方式を学びつつ、併せて、保育学を修得し、幼児期の子どもの保育に取り組める保育士

3) 幼児体育指導者

地域社会や家庭での幼児期の運動あそびの重要性とその支援・助長のあり方について学び、また、必要な指導法を修得し、これをベースに幼児期の子どもの発育・発達を促す幼児体育指導者

